撃突へ産増戦決・激憤

断じてやり抜くぞ

㊥鉄一つに熱魂籠める学徒隊大江試作機の初飛行に成功
㊦量産進む三菱誘導機製作所
子工員も死力で増産に
㊦いづれも撮影の日曜

職場に憤怒轉移
総力を絞りだせ

空航藤遠長官談話

一億の腕を結ぶテニヤン、大宮島の「特攻」の発表は敵撃滅の闘魂を倍加し憤怒の熱火の渦と化した、血戦の島々の勇士らは 決戦増産のため 老大な敵を二ケ月にわたって釘づけにしたのだ、各工場ではたゞちに職場に「敵撃滅」の三戦力に於て挙げられなる大宮島の特攻隊の壮挙を讃え「二千年の歴史も未だ嘗つて無かつた」と特記した。その大宮島の二部隊をはじめ、その特攻隊は我国の一部でさえある、米人ウヰルキンスン上陸軍の見透しは甘い、と悲憤の涙を呑んだ、その悲憤は過去八ケ月、ギルバート島上陸以来、マーシャル、カロリン、マリアナ、パラオ、ニューギニア、ルソン、ボルネオ、セレベス、ビルマ、ニューブリテン、ソロモン、ニューアイルランド、アリューシャンと、太平洋全域に亘る我が将兵の血戦の島々の上に、敵の物量作戦の前に見す見す多くの将兵を失つた悲憤であり、最後の一兵まで戦ひ抜いて玉砕した将兵の霊に対する痛憤であり、キスカ島からガダルカナル島撤退の陰謀に対する憤激であつた、

敵米英 撃滅の猛撃

最前線にある総攻撃を指導統率する統帥部、太平洋の人柱と化した将兵、中将と同期生で、まことに肝胆相照らしたものがある、沈没しゆくレイテと自身を重ね合せた陸軍中将と、その他、この特攻隊の壮挙を動機に続出するであろう特攻隊に感激しないものはない、これで決戦に部のこと仕組まないと云つて過言ではない、

街頭を 見せまい、そこに

には所在だけに 防衛して ある幾多男女の姿が見受けられる、国が戦つたからのたゞ中にある一大決の秋、これが腕を振ふる国民の務でありつゝか、工場、職場で国民総武装の態勢をガツチリと固めて一億一丸となつて敵撃滅に邁進かなければならない、高品非常時局の四面楚歌の中にあつて、一億一心、国民総武装の態勢を固めて、敵撃滅に邁進かなければならない、高品非常時局の四面楚歌の中にあつて、一億一心、国民総武装の態勢を固めて、敵撃滅に邁進かなければならない、

攻略戦 を続行し地球

なる宮島有史以来の決戦、我が国力はこゝに於てか、その全力を傾倒して、この決戦に邁進かなければならない、

拾身奉公 必ず復仇

産報理事長談

「この特攻隊 職域に於ける一つのだと 産報中央本部理事長 岡部長

敵に多大の出血 金中将談

アツツの山崎部隊長と同期生 岡談

米鬼に一泡吹かす テニヤン勇士を偲ぶ丸通戦士

勝つあるのみ 尾崎喜八

神州護持の人柱 大宮島のわが勇士

揚陸命令 高品中将特

西原一策中将談

書間飛機 小畑中将談

敢闘十月 死活の鍵ぞ

自ら護國の防波堤 情の兄を語る小畑忠良氏

杉本豊大佐 大家大佐

快男子の大家大佐 謹厳端正な杉本大佐

初の秋場所大相撲 十一月五日から晴天十日間

海兵舞鶴分校新設定

洋傘直しに切符 勝つあるのみ

米鬼に一泡吹かす テニヤン勇士を偲ぶ丸通戦士

凄いぞV二號 一里半の円内爆破

南線で獨軍反撃、北方では百個師撃破

ベルフオール米軍迫る

アドリア岸激戦

「定額」の有利さ を物語る事實

金貯便 額定

筆陣

社説 守勢作戦圏外の犠牲者を弔ふ

小畑中将談

緒方大佐

増田少将談

高品中将談

特中品高

書間飛機

尾崎喜八

勝つあるのみ

大家大佐

杉本豊大佐

快男子の大家大佐

謹厳端正な杉本大佐

初の秋場所大相撲

海兵舞鶴分校新設定

洋傘直しに切符

米鬼に一泡吹かす

凄いぞV二號

南線で獨軍反撃、北方では百個師撃破

ベルフオール米軍迫る

アドリア岸激戦

「定額」の有利さ

金貯便 額定

筆陣

社説